

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<u>合計</u>	<u>30</u>

事業所番号	2370501088
法人名	有限会社 清和会
事業所名	グループホーム 城やしき
訪問調査日	平成20年12月16日
評価確定日	平成21年1月20日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月21日

【評価実施概要】

事業所番号	2370501088		
法人名	有限会社 清和会		
事業所名	グループホーム 城やしき		
所在地	名古屋市中村区城屋敷町一丁目3番 (電話) 052-411-5877		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成20年12月16日	評価確定日	平成21年1月20日

【情報提供票より】(平成20年10月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年6月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 8人, 非常勤 12人, 常勤換算 人	

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	46,600 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有)(120,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / (無)
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 150 円
	または1日当たり		円

(4) 利用者の概要(平成20年10月17日現在)

利用者人数	18名	男性 6名	女性 12名
要介護1	7名	要介護2	3名
要介護3	6名	要介護4	1名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 80.3歳	最低 71歳	最高 96歳
協力医療機関名	すぎやま内科・ますこ記念病院・鶴飼病院		

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム周辺は古くからの歴史を持つ土地柄であり近年はマンションや新しい住宅が建ち、新旧の住民が入り混じっている。オーナーは地元の旧家で精神科の開業医であり、地元の協力が得られやすい。今年度は9月に新体制が整ったことから、今後の取り組みが期待される。介護計画は一人ひとりの心身の状況に合わせきめ細かく立てられており、毎日目標に沿ったサービスが提供されているかケアプランチェック表でチェックしている。入居者は毎日リハビリ体操をしたり絵を描いたり、居室で針仕事をしたり、ひとり静かに過ごしたりと思いいに過ごしている。入居者の表情はのびのびとしており、理念にあるようにその人らしく生活している様子がうかがえた。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>主な改善課題は地域密着型サービスとしての理念、市町村との連携、同業者との交流の項目などがあげられる。前回の評価結果はミーティングで職員に報告され話し合われたが、具体的な改善の取り組みはなかった。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>施設長が外部評価について職員に話をし、自己評価は全職員が取り組むよう伝えたが全員が取り組むまでには至らなかった。職員から難しかったが、日ごろしていることを振り返る機会になったという声があった。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議のメンバーは入居者家族、民生委員、元民生委員、町内会長、老人会会長、医師、学識経験者である。ホーム側の事情により今年度は開催されていない。9月に新施設長が就任し新しい運営体制がスタートしたので、早めに開催したいと考えている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族とは何でも言い合える関係を築いており、意見箱は置いているが、家族は直接または電話で職員や施設長に意見、要望を伝えている。意見、要望があれば話を聞いてできることはきちんと対応している。入居者の希望で家族に度々電話をかけたが家族の都合があり、職員が自分の携帯に電話をかけ入居者に納得してもらった。入居時に外部の苦情相談窓口を説明している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、秋祭りに子どもみこしがきてくれたり近くの公園で開かれた祭りに出かけたりしている。まだ参加していないが空き缶拾いや清掃などの老人会の活動への誘いを受けている。散歩の時には近所の人が声をかけてくれたり、花や野菜をいただいたりしている。近くの幼稚園から敬老会に招待されて子どもたちと交流し楽しい時を過ごした。ボランティアも受け入れている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念は『その人らしさを大切に安心して生きがいのある生活をするためのお手伝いをします』である。施設長、管理者は地域との関わりを大事にし地域との交流を進めていきたいと考えており、次第に地域に馴染んできている。しかし地域密着型サービスとしての理念とはなっていない。		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとしてのホームの役割について職員間で話し合い、これまでの理念に加えて地域密着型サービスとしての役割を目指した内容を盛り込むことを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関に掲げている。職員は理念の精神について理解しており、毎月のミーティングでは理念にある『その人らしく』とはどういうことか、入居者にいかにその人らしく生活してもらうかについて話し合っており、活発に意見を出し合っている。日々の介護が理念に沿ったものとなるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、秋祭りに子どもみこしが来てくれたり近くの公園で開かれた祭りに出かけたりしている。まだ参加していないが空き缶拾いや清掃などの老人会の活動への誘いを受けている。散歩の時には近所の人が声をかけてくれたり、花や野菜をいただいたりしている。近くの幼稚園から敬老会に招待され、子どもたちと交流し楽しい時を過ごした。ボランティアも受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長が外部評価について職員に話をし自己評価は全職員が取り組むよう伝えたが、全員で取り組むまでには至っていない。また、前回の評価結果はミーティングで報告し、話し合いをしたが具体的な改善の取り組みはなかった。		施設長、管理者、職員間で自己評価および外部評価を実施する意義について話し合う機会を持ち、理解を深めると共に評価を活かして具体的な改善に取り組むことを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議のメンバーは入居者家族、民生委員、元民生委員、町内会長、老人会会長、医師、学識経験者である。ホーム側の事情により今年度は開催されていない。9月に新施設長が就任し新しい運営体制がスタートしたので、早めに開催したいと考えている。</p>		<p>関係者の協力を得やすい環境にあるので定期的な開催につとめ、会議メンバーから率直な意見をもらい、サービスの向上に活かしていくことに期待したい。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>管理者はケアマネジャーであり介護保険の認定のため区の介護保険係の窓口を月2回訪ねている。区の保護係とも連携しているが、グループホームとして区の担当者とのかわりは見られない。市の介護指導課の指導を受け分からないことがあると電話で相談している。</p>		<p>現場や入居者の課題解決のためには市町村の理解や支援が必要なことが多く、そのためにはホームの考え方や実態を担当者に知ってもらうことが大切と考えられる。直接の担当となる区の担当者との関係づくりを積極的に行い、協働関係を継続することが望まれる。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の面会の際に積極的に話しかけたりお茶を出してゆっくりしてもらいながら入居者の様子を話している。面会の少ない家族や連絡などある時は電話をする。毎月「城やしきだより」で行事や入居者の様子、職員の異動、連絡事項など写真と共に知らせている。個人の写真はアルバムとしてまとめ誕生会でプレゼントしている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族とは何でも言い合える関係を築いており、意見箱は置いているが、家族は直接または電話で職員や施設長に意見、要望を伝えている。意見、要望があれば話を聞いてできることはきちんと対応している。入居者の希望で家族に度々電話をかけたが家族の都合があり、職員が自分の携帯に電話をかけ入居者に納得してもらった。入居時に外部の苦情相談窓口を説明している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>シフトを組む際できるだけ職員の希望を聞いたり、コミュニケーションを良くするなど、離職を少なくするよう努めている。一定の職員は離職を繰り返すが、安定して勤めている職員の割合が多いことから、職員の交代によるダメージは少ない。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報提供をしている。実践者研修を受けた職員は資料を掲示し、他の職員に確認してもらっている。今後、この資料を基にホームにあわせた資料を作り実際に活かしていきたいとしている。内部ではミーティングの後に勉強会をしている。施設長、管理者は実際に仕事をしながら職員の相談にのりアドバイスをしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者のネットワークに加入していた時期はあったが現在は加入していない。施設長は今余裕がないが将来的には考えていきたいとしている。現在は研修会などで同業者と情報交換をしている。また、知り合った同業者と互いに見学したいと話しているが実現していない。		ホームの質の確保のためには同業者との交流や連携が不可欠であり、施設長は同業者との交流の必要性を感じていることから、ネットワークへの加入など具体的な取り組みに期待したい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居はできれば実施したいと考えているが現在はできていない。見学はなるべく本人と一緒に来てもらい、入居者の皆さんと一緒にお茶を飲んだり話をして雰囲気に馴染んでもらっている。見学者がいるといつも積極的にアピールする入居者もいる。来ることができない場合は、家庭を訪問し本人と面接して、職員に馴染んでもらうようにする。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は野菜作りや掃除の仕方など入居者の得意なことを教えてもらう。若い職員が入居者に食事のメニューを相談すると喜んで教えてくれて「手伝ってやらにゃあいかん」と張り切っている。「疲れるでしょう」といたわってくれることもある。一緒にお茶を飲みおやつを食べて笑いあったり、時には家族の話で涙を流すこともある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人や家族から希望、意向を聞くほか、一緒に生活を送る中で様子をみながら思いを汲み取っている。話せない人でも感情は伝わるので、表情や雰囲気でのコミュニケーションをとって様子をみながら希望の把握に努めている。職員はミーティングや申し送りで気がついたことや本人の様子を話し合っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居前に生活歴や本人の気持ち、家族の希望などをアセスメントし、本人本位の介護計画を作成している。入居後、様子をみて見直しを検討し一人ひとりその時点にあった介護計画を目指している。ケアプランチェック表にて職員は毎日プランを意識し介護に努めている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3か月に1度を基本に介護計画の見直しを行っている。入居者の状態に変化があった場合は、職員からの情報やケアプランチェック表などで臨機応変に対応し見直している。家族からの希望も取り入れるよう努め、家族には介護計画を提示し説明、承認を得ている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人、家族の状況に応じて通院、受診など必要な支援を柔軟に対応している。入居者が入院した際は定期的に見舞いに行き本人、家族、主治医と話し早期退院を目指した支援をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回内科医の往診があり薬も処方される。入居者全員が年1回は採血や心電図の検査を受けており、必要な場合は毎月血液検査を行っている。オーナーが精神科医であり週1回はホームを訪問し情報交換している。必要があれば随時歯科医の往診も可能である。家族には結果などを報告し情報交換されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に向けた方針など文書化されたものはないが、家族には入居の時点で話し合いをもち納得してもらっている。重度化が進み、どこまで対応できるのかという問題は、医師の助言などを参考に病院、特別養護老人ホームなどを視野にいれ、入院や入所できるまで対応している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについては入居時に説明し同意書をとっている。排泄で失敗した入居者に対しても大きな声をかけず、そっと部屋に行きケアし、一人ひとりの誇りを損なうことのないように全職員心がけている。ミーティングの際、入居者の尊厳を守るよう職員の意識向上を図っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れに一応の目安はあるが、朝寝坊をする人やマイペースでゆっくり食事をする人、昼寝をする人と、本人のペースが尊重されている。絵の好きな人は居室に絵の具を置いて絵を描いたり、縫い物、オセロやゲーム、テレビを見たり、一人過ごすなど、思い思いに過ごしている。本が好きな人のために図書館の不要本を数冊もらってきて、居室に置いて好きな時に読めるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は職員が行っているが、入居者も能力に合わせ食後の片付けの食器拭き等職員と会話をしながら手伝っている。体が密着しやすいよう曲線状にカットされたテーブルで楽しく食事を摂ることができる。ホームの庭の菜園で採れた野菜も楽しみの一つである。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は基本的には決まっているが入居者の希望に対応している。入浴時は入浴剤等を使用し楽しく入浴することを工夫している。入浴拒否がある場合も個人的に対応し、安心して入ってもらえるよう考慮している。ゆったり入浴できのびのびと生活している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	習字、裁縫、絵画など個々の得意分野で能力を発揮してもらい、活力を引き出している。時には大作を提案しリビングのソファのカバー作りにも挑戦した。個々にできそうな仕事をお願いし、仕事をしてもらった後は感謝の気持ちを伝えている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日はホームの周辺を散歩に出かけている。近くのスーパーに買い物に行ったり、喫茶店に出かけたりすることもある。年2~3回は外食したり、色々な公園に出かけることもある。車、地下鉄を利用するグループに分かれ、全員で名城公園まで行ったこともある。入居者の気分転換になっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	道路の交通量、不審者などに考慮した上、玄関は施錠している。家族には入居時に説明し同意を得ている。施錠してあっても鍵を開けて外出する入居者もあることから、職員の見守りを徹底している。近所の人にも理解を得ており情報を提供してもらえる関係ができています。		入居者の安全を確保した上、外に出られない心理的不安を考え、日中鍵をかけない工夫をされたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害を想定した実践的な訓練は実施されていない。ミーティングで職員間では避難経路、役割分担などは確認している。非常災害時の備蓄品の備えはない。		地域住民との連携、協力を得ながら避難訓練などを定期的実施し、災害に備えた飲料水、食料品等の備蓄の確保を期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士がバランス管理している宅配食材を利用している。家庭菜園で採れた野菜など季節感のある物を取り入れ日々工夫している。食前に嚙下体操を取り入れて食欲増進に効果を得ている。個々の摂取量は日々の生活記録に記入し把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは広々としており、暖かな日差しがさし込みとても家庭的な雰囲気である。一步庭に出ると樹木、季節の花々、小さな家庭菜園があり庭でも季節を感じ取ることができる。テレビの前にはソファがあり、手作りカバーが掛かっていて、皆思い思いに腰をかくつろいでいる。リビングの所々に季節感のある飾りつけがされており壁には入居者の個人の作品、写真など貼られ安心感漂う空間になっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者の思いのつまったタンス、好みの本、写真、鉢花などが置かれ居心地の良い場所となっている。大切な方の仏壇を持ち込み自宅同様に供養している。天気の良い日には曜日で順番に布団などを干し清潔感のある居室となっている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。